

神根中だより

～歌声と笑顔あふれる学校～

令和3年11月号

学校教育目標
主体的に学ぶ、
心豊かでたくましい生徒



かみね
川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

受け継ぐ者の気概

校長 松村 一人

外で鳴く野鳥の声が聞こえてくる。とても静かである。ここは体育館。ただ一人、後期生徒会役員選挙の候補者が一生懸命話している。生徒と教職員を合わせて550人以上もの人がこの体育館にいるのに、野鳥の声が聞こえるほど静かである。だから、候補者の演説は直接心に届いてくる。演説会の広報（候補者の公約などが書かれたもの）を読みながら候補者の演説を聞いていた私は、**ふと目を上げた瞬間、驚きの光景を見た。**なんと体育館の前に座っていた3年生のほとんどが、その広報には目を落とさずに、一心に演説者の方に顔を上げて聴いていたのだ。しかも微動だにしていない。これこそ「聞く」ではなく「聴く」だろう。広報を読みながら聞いていた私は自分が恥ずかしくなった。（もちろん広報を参照することは悪いことではない。）そして、その3年生の後ろ姿は、「これが私たち神根中の42期生だ。これが本当の神根伝説だ。」と言わんばかりに、背中で語っているのである。その凜とした姿にオーラさえ感じた私は鳥肌が立ち、涙が出そうになってしまった。30年以上の教員生活の中、生徒会役員選挙でこんなに感動したことは初めてである。

思い起こせば、体育祭のスローガンが

「感謝感激 ～真向勝負で受け継ぐ 神根伝説～」

になったと知ったとき、3学年の目標

「神根中の伝統を継ぐ者としての責任を果たす学年」

と同じ匂いがするな～と感じたのを思い出した。

その私が感じたことが正しいと更に確信したのは、3年生一人一人との校長面接である。3年生の何人かが異口同音にこう答えてくれたからである。

校長：「中学校生活で一番頑張ったこと（一番の思い出）は何ですか？」

生徒：「体育祭です。1年生の時にやった体育祭でそのときの3年生の姿に感動して、去年はコロナでそれができなかったけれど、今度は僕たちがそのときの3年生のような姿を1，2年生に見せたくて、伝統を引き継ぎたくて頑張ったからです。」と。

42期生3年生は明らかに、コロナ渦で途切れそうになった神根の伝統を受け継ぎ、それを具現化しようと全力を尽くすことに心を燃やしている。しかも教員にも生徒にも一致した目標に違いない。そのために、そこに向かう気概は普段の生活からにじみ出ているのだ。

今年度、初めて体育館に全校生徒が集まった。3年生は前に座り、1，2年生は後ろに座っている。後ろ姿しか見せられないが、後ろ姿を見せるだけで充分である。1，2年生のみなさんは、感じただろうか？「見れども見えず。」問いかけなければ、見えないものです。3年生の姿をしっかりと見て、感じて、やがてその背中を追い越して欲しいのです。

全校集会でも話しましたが、3年生の体育祭での応援、すごかったですよね。全校生徒の前であんなにも大きな声で応援し、歌を歌い、笑いをとっての全力の姿！全員の保護者の皆様、地域の皆様はその雄姿をご覧いただけなかったこと、誠に残念です。

私は、神根中学校の校長になれたことに幸せを感じています。

